

## 編集後記

今号では、「古典の写本」シリーズに碑文に登場してもらった。フランスのアカデミーで古典学を扱うのが、Académie des Inscriptions et Bell-Lettres であるように、刻文（碑文）は偉大なるローマ人という先祖を知るための直接的な手段として、古典学の中の重要な部門であった。そこにある文化的なバイアスは別にしても、写本学と刻文学は切っても切れない仲であり、あえて別シリーズをたてることもないと思い、写本シリーズの題名は変えずに、未解読のビュー語面を含む碑文を紹介していただいた。

高島 淳